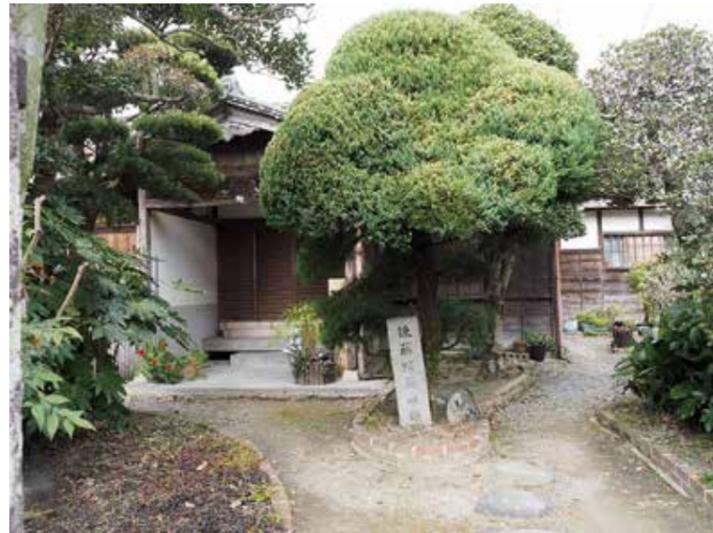


第4章. 宿毛市内の建造物



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛市後藤邸正面門柱



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸正面式台



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸主屋南面
寄棟屋根に寄棟下屋付き
古い形式の板庇が残る



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸主屋南面
二重板庇と木製格子が残る



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸主屋南面
開口部の吹き寄せ格子



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸主屋南面西隅
軒下部分の丸桁小口
垂木構成
林邸座敷棟で見られるもの



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸主屋南面東隅
軒下部分詳細



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸主屋正面玄関部分
むくり屋根の構成は林邸と同じ



■宿毛市林邸建造物調査
後藤邸敷地南側の築地塀
基礎部分は切石の布積み



■宿毛市林邸建造物調査
林邸周辺の歴史的景観
松田川からの水路景観



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南の堤防沿いに立つ古民家
水路に沿って同じ切妻屋根が並ぶ
木造平屋平入りの形式は古い



■宿毛市林邸建造物調査
水路沿いに並ぶ古民家の一つ
木造平屋切妻屋根の北面
右瓦使用



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家
木造二階建て寄棟屋根



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家
木造二階建て寄棟屋根



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家
木造二階建て寄棟屋根
右瓦使用



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家
木造二階建て寄棟屋根付属棟



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家
木造二階建て寄棟屋根
付属屋根に寄棟屋根は古い形式



■宿毛市林邸建造物調査
水路沿いの亀甲積み石積み



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家横祠
小社だが入母屋屋根形式外観



■宿毛市林邸建造物調査
祠の正面意匠



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防南面石積
切石の落とし積み



■宿毛市林邸建造物調査
松田川南側堤防に並ぶ古民家
木造二階建て寄棟屋根



■宿毛市林邸建造物調査
1階部分の古民家格子と戸袋の意匠
真壁で土佐漆喰仕上げ



■宿毛市林邸建造物調査
街路沿いに残る寄棟屋根の民家
改修して飲食店で活用
近代期の木造建造物の特徴が残る



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛歴史館北の古民家A南面外観
寄棟屋根で角形の鬼瓦が乗る
右瓦使用



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛歴史館北の古民家A南面外観
主屋根の下に下屋が付属



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛歴史館北の古民家B北面外観
寄棟屋根に寄棟下屋が付く



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛歴史館北の古民家B北面外観
寄棟屋根に寄棟下屋が付く



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛歴史館北の古民家B北面外観
寄棟屋根の形式の組み合わせ形式



■宿毛市林邸建造物調査
宿毛歴史館北の古民家A南西面外観
寄棟屋根の組み合わせ形式

資料



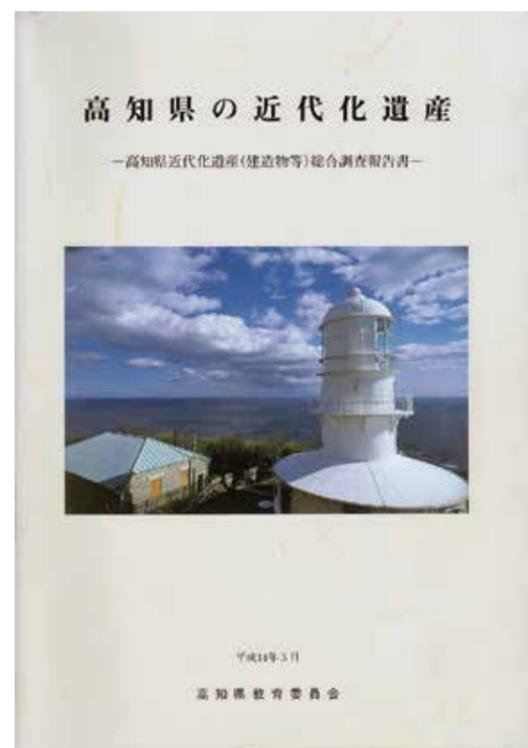
昭和47年3月高知県教育委員会発行



昭和56年3月高知県教育委員会発行



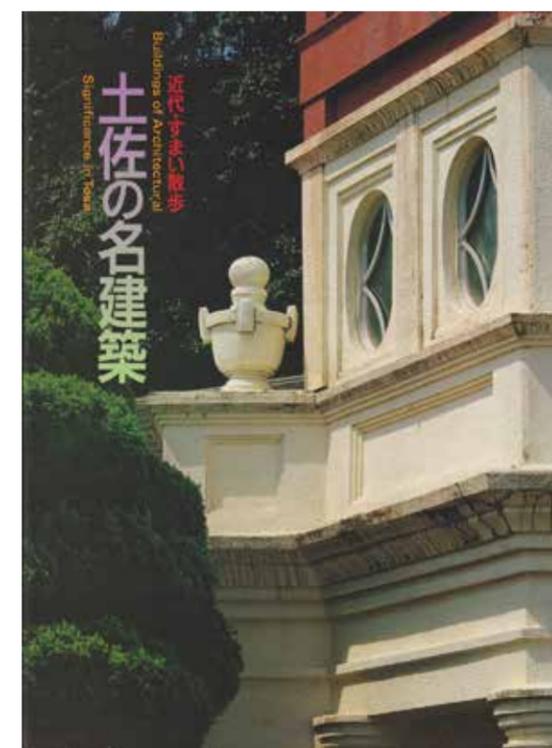
平成28年3月高知県教育委員会発行



平成24年3月高知県教育委員会発行



平成29年6月(株)高知新聞社発行



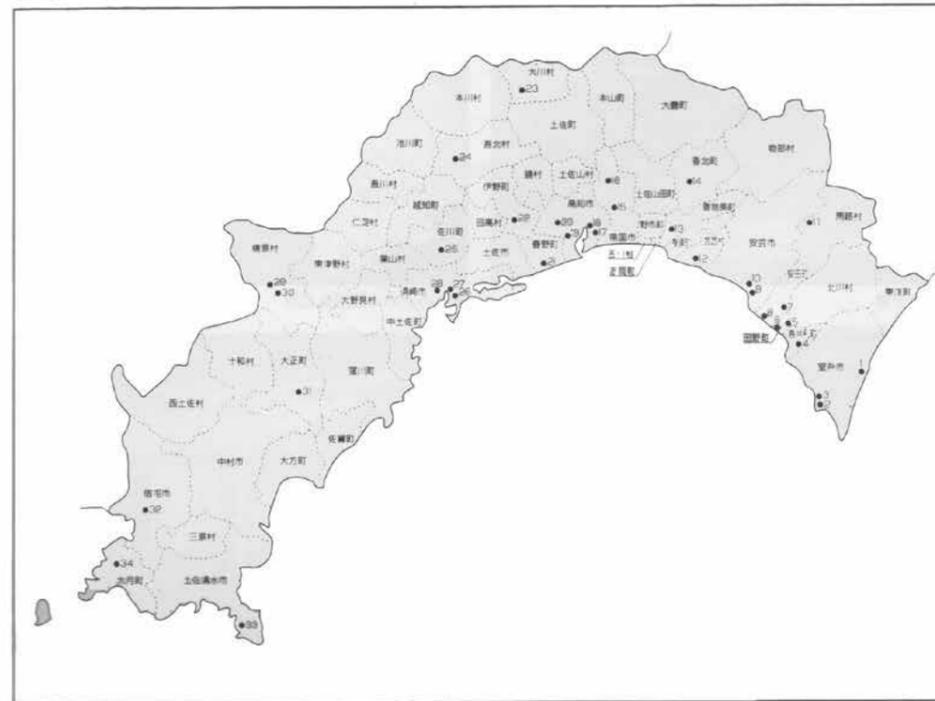
平成26年1月(株)高知新聞社発行

第3章 3次調査物件の解説

■ 95年度高知県近代和風建築3次調査リスト

NO	名称	所在地	建築年代	NO	名称	所在地	建築年代
1	鶴和家住宅	室戸市室戸岬町鹿岡266	大正5年	18	刈谷石灰工業所	高知市五台山和泉2452	大正期
2	池田家住宅	室戸市吉良川町甲2234	明治末期	19	村田建材店	高知市農人町5-20	昭和6年
3	武井家住宅	室戸市吉良川町甲2281	明治42期	20	旧手嶋家住宅	高知市大川筋2-2-19	江戸末期
4	大西家住宅	安芸郡奈半利町甲108	昭和10年	21	小島家住宅	吾川郡春野町弘岡上1213	明治40年
5	岡御殿	安芸郡田野町	天保13年	22	土居家住宅	吾川郡伊野町大和町3806	明治22年
6	浜川家住宅	安芸郡田野町	天保14年	23	石川家住宅	土佐郡大川村下小南川175	江戸中期
7	安田農業協同組合 中山支所	安芸郡安田町大字安田1847	昭和7年	24	山中家萱室	吾川郡吾北村小川中峯谷屋敷2007	大正15年
8	旧市川医院	安芸郡安田町安田1672	大正2年	25	旧青山文庫	高岡郡佐川町佐川甲 (佐川町総合文化センター内)	明治19年
9	正秀殿工場	安芸市伊尾木西組800	昭和4年	26	三浦家住宅	須崎市青木町1-16	明治後期
10	皇中家住宅(野良時計)	安芸市土居638-4	明治20年	27	竹本家住宅	須崎市東古市町4-3	明治前期
11	旧河平家住宅	安芸郡馬路村馬路	天保10年	28	浦岡家住宅	須崎市中町1-13	大正初期
12	旧末延堂医院	安芸郡芸西村和食下組甲1586	昭和2年	29	携原歴史民俗資料館	高岡郡携原町携原1563-1	明治24年
13	安岡家住宅	香美郡香我美町山北979	文政11年	30	ゆすはら屋	高岡郡携原町携原1203-1	昭和23年
14	三谷家住宅	香北町目ノ御子	明治前期	31	新谷家住宅	幡多郡大正町北ノ川	昭和13年
15	和田家住宅	南国市岡豊町小蓮617	大正末期	32	林家住宅	宿毛市宿毛2581-4	明治22年
16	味元家住宅	南国市岡豊(県立歴史民俗資料館内)	天保3年	33	吉福家住宅	土佐清水市松尾	明治33年
17	濱口雄幸生家	高知市五台山4378	江戸末期	34	旧弘見郵便局	幡多郡大月町弘見	大正12年

■ 3次調査物件分布図



高知の近代和風建築(1)

33. 吉福家住宅

■ 主屋：木造一部つし2階、切妻造、棧瓦葺、下屋付 [明治33年]
■ 納屋：木造2階建、切妻造、棧瓦葺 [明治中期]

四国最南端、足摺岬の先端に松尾という漁村集落がある。九州に沿って北上する黒潮が日本列島に最初に当たるのがこの場所で黒潮によって回遊するカツオ漁の基地として足摺周辺で最も早く開けた集落である。吉福家はもともとカツオ漁の網元であり、現在の住居は明治33年に建築されている。

東側に花崗岩の切石積の石垣を設け、台風を防風壁とし、南面は椿の生垣だったものを築地塀に替えている。主屋の規模はこの地域では大きく、南向き床をもつ8畳の書院と板廊下、家人用と作業用用の二つの土間など平面的にも特徴がある。

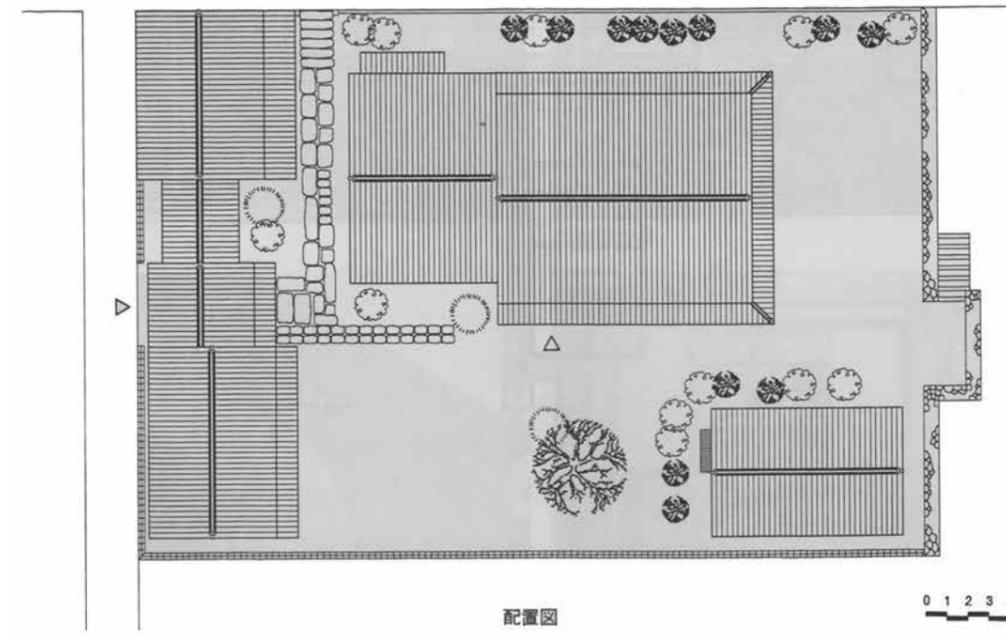
主屋、納屋、門、便所など切妻造棧瓦葺の建物が敷地全体に配置され、岬の先端に残るカツオ漁網元の住居として当時の雰囲気を残している。



南東側築地塀



主屋座敷床



配置図

高知の近代和風建築(2)

林有造邸



廊下から見た離れ座敷の軒ははっとするほど美しい。こんなところにも職人の心意気を感じられる。



建物概要

- 建築** 明治22年(1889)7月
- 形式** 寄せ棟造り二階建て
- 屋根** 檼瓦葺き
- 外壁** 漆喰塗り。押縁付き下見板張り。横羽目板張り。堅羽目板張り。
- 特徴** 正面玄関の切り妻造り檼瓦葺きのむくり屋根は、門から長いアプローチを通過してここに至った客を驚かす意匠である。正面の波形の臺段も特に目を引き、京都で学んだ棟梁の技量がこの部分に集中されている。



林邸玄関。曲線を生かした屋根。すのこの木組り細工などここが寺社建築も思わせる

さかわ めいこうかん
佐川 名教館
(高知県佐川町)



■名教館の歴史Ⅰ
安永元(1772)年六代領主、深尾茂澄は高知城下より山本日下を招いて家塾として「名教館」を創設。ついで享和2(1802)年七代繁寛はこれを拡充して郷校とした。天保になって九代重教は校舎を菜園畑に移して広大な敷地に文武館を設け、その中に名教館を建築した。それは長州萩の明倫館に習った教育施設で、土佐藩校を凌ぐ充実した内容と設備を誇るものであった。

■名教館の歴史Ⅱ
この建物は天保元(1830)年に建築され、元宮内大臣田中光顕公をはじめとする維新の志士たちや、牧野富太郎博士など佐川が世におくった政治家・学者などがこの「名教館」で学んでいる。明治初期には英語の授業も始まっていた。
校舎は寄棟屋根の檜瓦葺きで妻入り、正面に入母屋屋根の玄関が付属し、建物は重厚で格式が高い。明治になって深尾家はこれら文武館の敷地建物の一切を県に寄付した。名称を「名教学舎」と改名。後に、「石孝館」、「佐川小学校」となる。



■近代和風建築の正面意匠
腰壁部分が押縁付きの下見板張り、上部は透明ガラスをはめ込んだ引違いの建具。



お問い合わせ
高知県高岡郡佐川町甲356-2
佐川町教育委員会
TEL 0889-22-1110
高知県高岡郡佐川町甲1472-1
さかわ観光協会
TEL 0889-20-9500
高知県高岡郡佐川町甲1286
佐川くるがねの会
TEL 0889-22-5240



■紅梁上の深尾家梅鉢紋の幕段
和様の社寺建築などで正面紅梁の上に配置され、カエルが殻を広げた形に彫刻された装飾的部材。ここでは梅鉢紋の木彫り彫刻である。



■柱横に突き出た木鼻
社寺建築などで隅柱から縁形彫刻を突き出す装飾部材。鎌倉時代に初めて現れ、拳鼻・象鼻・狼鼻などの彫刻があり、ここでは拳鼻である。



■正面屋根頂部の懸魚
正面妻側の棟木先端部分に配置される装飾的部材。中央に梅鉢紋の止め柱が付き、左右に植物様の装飾彫刻も付く。下が銅格子で上が破瓦板の構成。

佐川建築物チラシ「名教館」 表



■名教館の歴史Ⅲ
明治19年の小学校令により義務制となり、また、児童数も急増したため佐川小学校を現在地に新築した。その新築校舎の玄関、応接間として「名教館」の玄関と建物の一部が移築された。
昭和40年佐川小学校の大改装で校舎は鉄筋コンクリート造となり、名教館は記念館として校舎西隣に移し、佐川の教育のシンボルとされた。平成26年3月佐川の歴史的まちづくりの一環として現在地に移築された。

■正面玄関の格天井
鎌倉時代にあらわれた天井で、格縁を縦横に組んで裏板を張った天井である。格式を重んじる室に使用され、明治時代には洋風建築にも使用された。



■正面玄関のガラス戸
幅の広い二枚のガラス戸で、腰部分に二枚の銅板、上部に四枚のガラスを入れた建具である。当初は板戸だったものが明治期にガラス戸に変更された。



■正面柱の根継ぎ
和風建築の伝統的木造継ぎ手の一つである追掛け大柱継ぎ。上下前後左右の力にも耐えるので、柱の足元が腐朽した時に別材を継ぎ足す伝統的木造修復技法である。

佐川建築物チラシ「名教館」 裏



佐川建築物チラシ「旧浜口家住宅」表



佐川建築物チラシ「旧浜口家住宅」裏

町指定文化財
佐川文庫庫舎
(旧須崎警察署佐川分署)

明治19年、佐川町上町に和洋折衷の近代的庁舎の須崎警察署佐川分署が新築され、落成式が盛大に挙行された。
大正11年、佐川警察署として独立し、昭和5年、佐川町松崎に木造二階建ての洋式新庁舎が建築されたことで警察庁舎としての役目を終えた。
昭和5年に建物は青山会に払い下げられ、会堂兼特別閲覧室と青山文庫の正面玄関として使用している。昭和38年には高知県に移管される。
当初の建物は不要になったが、当時の有志の計らいで佐川町上町の「佐川町立総合文化センター」に昭和53年再び移築され、佐川町教育委員会の所管となり民衆館の名称で使用された。平成21年、歴史的風致維持向上計画事業により再び佐川町上町に移築された。

●佐川文庫庫舎正面

●二階バルコニー出入部の建具

お問い合わせ

高知県高岡郡佐川町甲356-2
佐川町教育委員会
TEL 0889-22-1110

高知県高岡郡佐川町甲1650-2
さかわ観光協会
TEL 0889-22-7708

高知県高岡郡佐川町甲1286
佐川くろがねの会
TEL 0889-22-5240

●玄関部分敷石
一階ポーチ部分の敷石は、縁起の良い菱形切石の組合せで砂岩小はつり仕上げである。

●玄関部分柱脚部
ポーチ部分の木造の円柱下端には、高さ調節用の唐様礎盤が礎石の上にある。

●外壁窓部分
外開きの木造錠廻開き戸の内側には木造上げ下げ窓が取り付けられる。

佐川建築物チラシ「佐川文庫庫舎」表

●正面の外観意匠

明治19年に佐川の地に建てられた擬洋風の公共建築である。
木造二階建て、屋根は寄せ棟造りで和風の椽瓦葺き、屋根中央から左側を右瓦で右側を左瓦で葺き、土佐の伝統的葺き分け技術が継承されている。外壁はスギの厚板に白ペンキ塗りでドイツ下見板張りの洋風仕上げとなっている。

1F
●一階の正面玄関に丸柱を持つポーチ、内部は執務空間で二階への折れ曲がり階段を配置する。

2F
●二階正面に手摺り付きのバルコニーとアーチ状屋根が大きな特徴を示す。内部は執務空間と所長室を配置。

●木製柱上部
古代ローマの柱形式の変形型である。トスカナ式オーダーの形式を踏襲し、円柱の頂部に円盤型の受け木を取り付け、簡素だがヨーロッパの比例様式意匠を取り込んだ柱の手法である。

●階段手摺り子
内部階段の手摺り子で、ヨーロッパの手摺り子や椅子や机の脚部分の意匠である。バルコニー手摺りや階段手摺り、玄関内部正面手摺りなどに使用されている。

●天井照明吊り金具の受け部分
照明器具を吊り下げる天井部分の受け部分である。木製円盤状から照明器具ペンダントをつり下げる。漆喰やプラスターでなく木製に白の塗装が特徴である。

佐川建築物チラシ「佐川文庫庫舎」裏

平成26年度

宿毛市「林邸」建造物調査報告書

平成27年3月

発行 宿毛市立宿毛歴史館

編集・印刷 株式会社AREA